



No.29 2019.12.

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクス

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

交野市立小・中教頭会+市教委の皆さんが松が丘小に視察にこられました

12月13日（金）に、交野市の小・教頭会と市教委のみなさんが松が丘小学校にコミュニティ・スクールの視察にこられました。交野市では“交野市総合教育会議”において「教育大綱」の改訂について議論されています。その教育大綱改訂素案の『誰もが集い、地域みんなで子どもたちを支える学校の実現』の中で「・・・学校を核としながら、共に学びあい、共に高めあう新たなコミュニティの形成を図ってまいります。地域とともに子どもたちの豊かな成長を支えるコミュニティ・スクールの実現をめざします。」とコミュニティ・スクールの実現を明確に打ち出し、“交野市学校教育ビジョン”と“交野市生涯学習ビジョン”の連動を図ろうとされています。そうしたことを踏まえてのコミュニティ・スクールの具体的なイメージをとということでの視察だったのかなと思います。



まず、松が丘小校長先生より松が丘コミュニティ・スクールの取組を、市教委 CS コーディネーターが明石市のコミュニティ・スクールの立ち上げについて説明したあと、3年生のレベルアップ教室の様子を参観されました。

レベルアップ教室では交野市の教頭先生が近くで手のあがった子どもの質問に答えていただいたり、赤ペンをもって丸付けをしていただくなど、松が丘レベルアップ教室の雰囲気をつぶり味わっていただけたのではと思っています。

その後の交流会では、松が丘と朝霧の学校運営協議会の委員さん、朝霧小教頭先生、そしてコミュニティ創造協会からも参加していただき情報交換や質疑がおこなわれました。

【交流会の様子（抜粋）】

まず、朝霧小学校教頭先生より、朝霧小学校コミュニティ・スクールの取組について報告の後、松が丘小学校学校運営協議会委員、朝霧小学校学校運営協議会委員そしてコミュニティ創造協会より次のような状況についての話題提供がありました。

（松が丘）松が丘小学校のコミュニティ・スクールの取組は「地域で子どものいいところを見つけよう」という思いで進めている。朝のあいさつに始まり、松っ子教室もそうである。もともと、地域と学校のつながりはあったが、コミュニティ・スクールを通して地域と学校とのつながりがより強くなっている。課題としては、ふれあいルームの活用が挙げられる。つまり地域の方が入ってこられる場所の確保できるかどうか大きな問題である。そしていかに人を集められるかが問題となる。松が丘小校区には神社や仏閣がなく、人が集まる仕組みがないのが実情である。そのような実情の中で地域を支える後継者をどのように育てていくか、これが一番大きな課題である。



（朝霧 A）地域には学校に理解を示してくれる人がたくさんいる。協力してくれる人も多い。しかし、その人たちをどのようにして探し出すのが難しい。

(朝霧 B) コミュニティ・スクールの取組の中で、子どもとかかわることを通して考え方が変わった。コミュニティ・スクールをやり始めてコミュニスクールのよさを感じることができた。これは先生も同じだと思う。コミュニティ・スクールを進めていくためには、みんなの意識が変わっていかねばならないと感じている。

(コミ創) 明石では小学校区ごとにまちづくり協議会が設置され、まち協を中心にまちづくりが進められています。同じエリアでまちづくりとコミュニティ・スクールが動いているからこそ、まち協とコミュニティ・スクールのつながりをつくっていくことが大切だと思う。

それぞれの立場からコミュニティ・スクールに対して感じておられることを話していただきました。その後、質疑応答を行いました。その抜粋です。

Q1. ①地域の方と踏み込んだ話し合いをするきっかけは何か。

②学校と地域との連絡調整は誰がするのか。

A1. ①昨年からスタートした「松が丘サミット」であり、2回目の今年の「松が丘サミット」が本当の意味での松が丘コミュニティ・スクールのスタートではと思っている。昨年があったから今年のような「松が丘プロジェクト」とできてきた。このような話し合いがいろいろな場面できたらと思っている。例えば学級懇談会を1年に入学時点で、学校・保護者・地域でどのような力をつけて卒業させるかの熟議を始め、宿題について、学習の進め方等様々なことを熟議する場を設けることができたならもっと当事者意識が高まってくるのではと思っている。またもっと保護者や地域の方にも参加していただけるような場面を特別活動や総合的な学習の時間につくっていけるのではと思っている。学習を通して子どもの姿を共有できると教師も保護者も地域の方も当事者意識が高まり、それぞれの距離がぐっと縮まる。そのためには校長先生がビジョンをもちリーダーシップを発揮する必要がある。

②コミスク担当やコーディネーターといった調整の役割をまず置くのではなく、進めながら、話をしながら、共に活動しながら、互いの距離を縮めていくことが重要。コミュニティ・スクールのイメージが共有されない段階で調整役を置くことは、その人の負担感にもつながるし、コミュニティ・スクールの推進を阻むことにもなりかねない。

Q2. 朝霧小頭先生は昨年まで松が丘におられコミュニティ・スクールの推進をどう感じておられたのか。またコミュニティ・スクールを推進する立場が変わったが、どのような違いがあるか。

A2. 去年までは教諭の立場で、コミスクの取組を見ていた。新しいことが始まるとその都度校長先生から具体的な説明があり、イメージがだんだんとできてきた。その中で松が丘サミットがスタートした。その話し合いの中で交流というキーワードが出てきたので、体育の授業で取組んでいた、シンクロマットを通して、地域の方と交流する機会を設けた。校長先生から地域単元をという話もあり、それぞれの学年が教諭の立場を生かし、地域との関わりを意識した学習を考えるようになった。現在は教頭の立場だが、現校長と意思疎通を図りながら、地域とのパイプを太くしようとしている。「キックオフミーティング」は新しい試みとして行った。同じ目標に向かって、学校と地域が一つになる必要性を感じているおり、「あすあさ会（明日の朝霧をつくろう会）」という動きも生まれてきた。そのような取組を通して、新しい学校になろうとしているという実感がある。

こうした質疑の他にも保護者の変化や予算、行政からの施策の流れの課題等、いろいろな質疑応答の中で、改めて気付かされることや、考えさせられたこと、そして地域の方の考え・思いにふれられたことなど視察を受ける側にとって貴重な時間となりました。交野市の先生方には、コミュニティ・スクールへの思いの“熱さ”は十分に感じていただけたのではと思います。このような機会を与えて頂いた交野市の教頭会に感謝です。ありがとうございました。

(文責：北本・本所)